

ナレーションのじょうずさに関する一考察

郡 史郎 (近畿音声言語研究会発表資料dec2009の一部修正版：nov2012)

1 目的

しゃべりかたのじょうずへたとはどういうことか、そしてそれはいかなる音声要素によって決まるのかを知ることを最終的な目標とする。そのための作業の一環として、ここではテレビ番組の冒頭ナレーションで同一の文章（長いポーズをはさんだ2文からなる）を16名のナレーターが発話した資料を利用する。そして、それぞれがナレーションとしてどの程度うまく感じるのかどうか等を大学生・大学院生に評価させ、その結果がいかなる音声要素に基づくものであるかをF0と持続時間、ポーズの特徴の検討を通じて考察する。ただし、資料の性格もあり、以下に報告する検討結果はなお試行的・中間的なものである。

ここで使用する音声素材は、訓練を受けプロとして活躍するNHKアナウンサーが発話したものであり、すべてそれなりにじょうずなものである。しかも録音時にはできるかぎりうまいナレーションをしようとしたものと想像される。したがって、ここでは非常に高いレベルでのナレーションのうまさを問題にしているわけである（評価はしろうとが行っているわけだが）。この研究の目的はアナウンサーのランキングを行うことやけちをつけることではないので、記述内容から使用した音声の話者の方々の具体名が特定されないよう配慮した。

※話者の方々、使用許可をいただいたNHKサービスセンター・アーカイブス事業部の方々、実験参加者のみなさんにお礼申し上げます。

2 素材

NHK BSの紀行ドキュメンタリー番組「こんなステキなにつぼんが」（2007年～）のナレーションは概ね毎回異なる女性アナウンサーが担当している。ここでは比較的最近の放送（2008-9年）から16回分を選び、番組冒頭の

「遠い時代の面影を写した一枚の写真。写真の中の懐かしい風景を求めて旅が始まります。」

(2文の間にある約2.2-5.2秒の間隔を含めて約10.5-13.5秒の区間)を調査の素材とした。選択の基準は話者が重複しないこと、背景にはピアノの音が入っているが、それはしかたがないとして、それ以外に映像に付随した汽笛の音や踏切の警報音などが入っていないこと。ただし、波の音が小さく入っている程度のものはよいとした。なお、このナレーションが流れ始めるのは番組開始後50数秒の時点で、同時に文字情報は画面にはなく、すでに文字による探訪地の提示は終わっている。以下の調査に使用した音声は、デジタル放送をAC-3, 192kbpsで記録したものを、48KHz, 16bit リニアPCMで出力させたものである。

3 評価実験の方法

上記の音声について、ナレーションとしてどの程度うまく感じるか等を大学生・大学院生に評価させた。

評価実験では、最初に実験の目的、すなわち、テレビの紀行番組のナレーションで同一の文章を16名の話者が発話した音声を材料として、どのようなしゃべりかたがじょうずであり、どのようなものがじょうずでないかを知ることがを説明した。話者に関する情報はアナウンサーであることも含めて知らせていない。その後、16の音声を一度ずつ聞かせた。その後であらためて各音声を5秒のポーズをはさんで3回ずつ聞かせ、その間に質問に答えてもらった。異なる音声の間には15秒のポーズを入れ、新音声開始は信号音で示した。実験時間は説明を加えて約30分で、音声を聞きながら実際の判断をする時間は1音声につき約1分間となった。被験者は2群あり、それにより質問内容と音声提示順が異なる。

第1群は33名の日本人大学生および大学院生（ほとんどが女性）で、質問は以下の4つ。

- (1)「ナレーションとしてうまいと思うか、へただと思うか」を、「すごくうまい」から「すごくへただ」までの5段階から選択（途中段階の言語ラベルはなし）
- (2)「ナレーターはプロだと思うか」どうかを、そう思うか思わないかを選択
- (3)「このしゃべり方を自分は好きか嫌いか」を「すごく好き」から「すごく嫌い」までの5段階から選択（途中段階の言語ラベルはなし）
- (4)しゃべり方で気になるところ・気に入ったところを自由記述： 1音声につき約1分間の割り当てになっていて自由記述には不十分かと思われたので、自由記述はもしできればということで依頼したが、三分の二程度の回答者は簡単なコメントを書いてくれた。

第2群は30名の日本人大学生（やはりほとんどが女性）で、質問は以下の4つ。

- (1) 第1群と同じく「ナレーションとしてうまいと思うか、へただと思うか」を、「すごくうまい」から「すごくへただ」までの5段階から選択（途中段階の言語ラベルはなし）
- (2) 「ナレーションから、番組の続きに期待がもてるか」を、「そのとおり」から「全然違う」までの5段階から選択（途中段階の言語ラベルはなし）,
- (3) 「しゃべり方は単調か」（同前）
- (4) 「しゃべり方は大げさか」（同前）
- (5) 「話し方はかたいか」（同前）

音声提示順は順序効果を可能な限り打ち消すために第1群の逆順とし、その前にダミー音声（分析に使用しないが別話者による同じ番組のナレーション）を2つ加えた。

以上の評価項目のは調査者がこれらの音声を聞いて特徴的と感じた評価を整理して選定したものであり、先行研究の検討に基づくものではない。

聴取実験は大学の教室または研究室で行った。音声はパソコンからオーディオインターフェース、アンプを介してスピーカーから提示した。

4 評価実験の結果： ナレーションのうまさとはどういうことか

4.1 「ナレーションとしてうまいと思うか、へただと思うか」（5段階評価）の回答

この評価は回答者63名全員を対象とした。回答者63名全員の評価の分布を図2に示す。ここでは5段階評価を便宜的に間隔尺度と見なして算出した平均値の順に並べてある。図3は平均評価だけを示したものがある。図3では平均評価3.5以上の音声（以下「高評価音声」）を黒で、3.0以下のもの（以下「低評価音声」）を白で示している。平均評価3.5以上とは上位1/4の4音声と、第4位とほとんど評価値に差のない第5位の音声であり、平均評価3.0以下は下位1/4の4音声である。

ここで全平均は3.31、 $sd=0.42$ と、全体に評価が意外に厳しいが、当然ながら著しく低いものはない。最高評価(4.11)と最低評価(2.78)の差も1.33と小さい。

一方、個人による評価のばらつきを標準偏差で見ると0.81から1.06であり、とくにばらつきが大きいものも小さいものもない。図2を見ても回答はすべて一峰性の分布であり、

回答者による評価が大きく分かれたものはない。なお、2回答者群の平均値間の相関係数は.602であった。

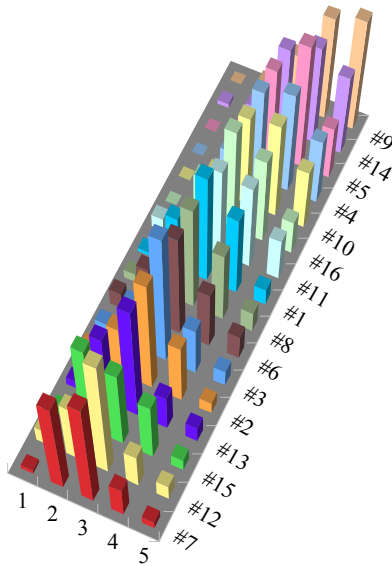


図2 各音声の評価分布（上から平均評価が高い順）

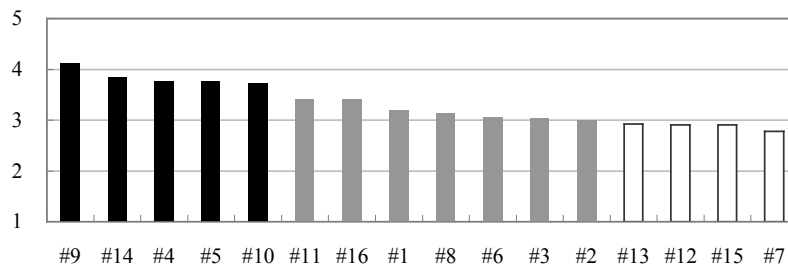


図3 各音声の平均評価（高い順に並べたもの）

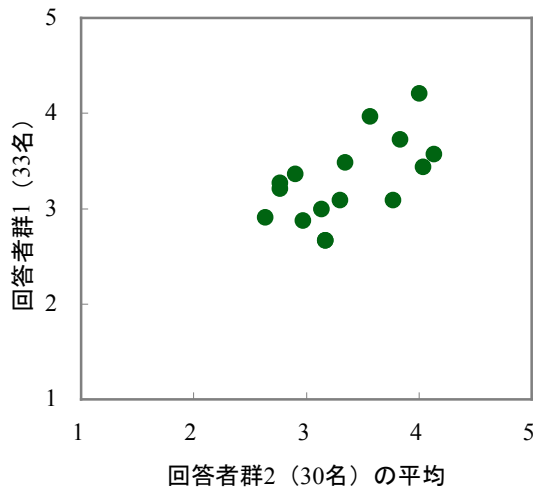


図4 ふたつの回答者群の平均評価

4.2 「プロだと思うか」(はい・いいえ)の回答

回答者群1(33名)のみの回答であるが、プロだと思うという回答は平均で24%から91%まで幅が大きい(全平均47.3 sd=20.6)。そして、「プロだと思う」かの平均評価は「うまいかへたか」の平均評価と強い相関がある($r=.916$, 図3)。

しかし、この結果は、かなりうまいと判断された音声でもプロの話し手だとは思われないことがあることを示す。また、話者は全員NHKのアナウンサーである、したがってどの音声もそれなりにうまいものであり、しろうとが簡単にまねできるレベルのものではない。プロとプロでない人が混じっていることを示唆するような質問方法のせいでもあるが、概ね厳しい評価がなされていることは興味深い。

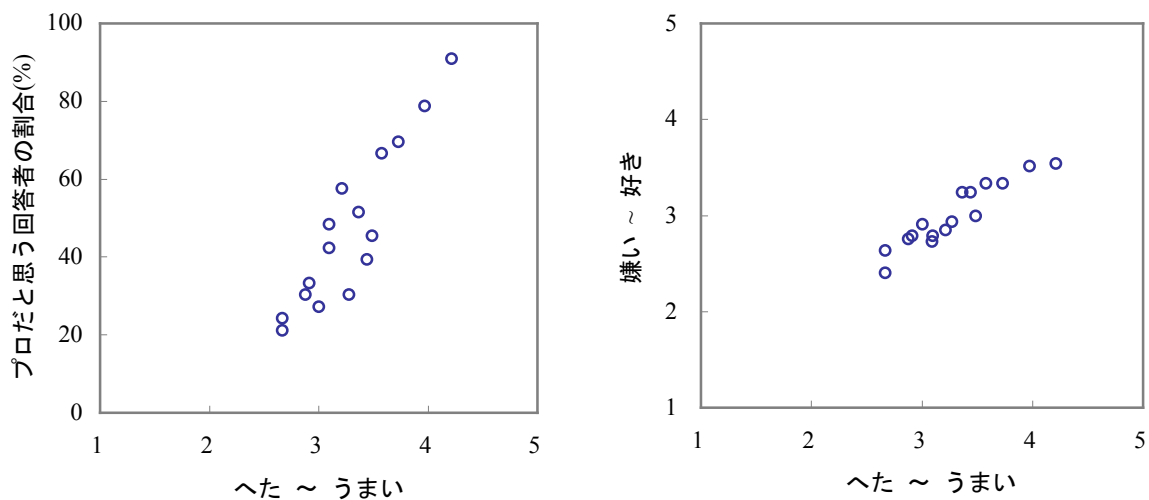


図3 回答者群1による「プロだと思うか」と 図4 回答者群1による「好きか嫌いか」と「うまいかへたか」の平均判断

4.3 「好きか嫌いか」（5段階評価）の回答

回答者群1のみの回答であるが、もっとも高い3.55の平均評価を受けた#9の音声と、もっとも低い2.41の平均評価を受けた#12の音声の間は平均1.14段階の差で、プロだと思うかどうかの判断に比べてばらつきが少ない。

全平均は3.00，sd=0.33であり，著しく高いものも低いものもないし高低の差も小さい。もっとも高い平均評価で3.55(#9)，もっとも低いもので2.41(#12)であり，あまり好き嫌いを感じるものではないようである。しかし，やはり「好きか嫌いか」の平均評価は同じ回答者群の「うまいかへたか」の平均評価と強い相関がある($r=.941$ ，図3)。

「うまいかへたか」の判断と「好きか嫌いか」は本来は別もののはずだが，うまいけど嫌いとか，うまくないけど好きというケースは実際にはあまりない，あるいは少し聞いた程度では出てこないということであろう。

4.4 自由記述

気になるところ・気に入ったところを回答者群1が自由記述した結果を稿末の付表に示す。ここでも平均評価の高い順に音声を並べている。縦線はそこから回答者が異なることを示す。

ここから厳しい評価が多いことが確認されると同時に，同じ音声に対する感想に話者間の共通性がそれなりにあることがわかる。ふだんはあまり気にせずに聞いている声でも，注意深く聞くと共通して気になるところがあるということであろう。

4.5 「番組の続きに期待がもてるか，しゃべり方が単調か，大げさか，かたいか（5段階評価）」の回答

いずれも回答者群2のみの回答である。各項目への反応の間の相関係数と統計的有意性を表1に示す。また，同じ回答者群の「うまいかへたか」の平均評価との関係を散布図の形で図5-8に示す。

ここから，「うまい」と「続きに期待がもてる」の評価は互いに高い相関関係があり，同時にそれらは「単調」「かたい」の評価と高い逆相関関係があること，そして「大げ

さ」の評価は「単調」「かたい」の評価と高い逆相関関係があるものの、「うまい」「続きに期待がもてる」とは有意な相関関係がないことがわかる。つまり、(1)「うまい・期待がもてる」対「単調・かたい」という評価次元と、(2)「大げさ」対「単調・かたい」、つまりという評価次元のふたつに分かれるわけである。試みに行った因子分析（バリマックス回転）の結果も図9に示す。このふたつの評価次元は、表現の内容に関わるものと、強度に関わるものという違いであろうか。さらに言えば、前者は「内容を表現豊かに描写し、その結果として続きを期待させる技量」であり「ナレーションのうまさ」そのものを表す基準であり、後者は「表現時の力の入れ具合、表現の派手さ、しつこさ」などに対応する基準と解釈できそうである。逆に言えば、そのような評価次元にかかわる質問しかしていないことになる。

表1 「うまい・へた、続きに期待がもてる、単調、大げさ、かたい」の平均評価間の相関関係 **： p<.01, ***： p<.001

	期待がもてるか	単調か	大げさか	かたいか
うまいか	0.973***	-0.772***	0.198	-0.747***
期待がもてるか		-0.849***	0.303	-0.816***
単調か			-0.700**	0.912***
大げさか				-0.717**

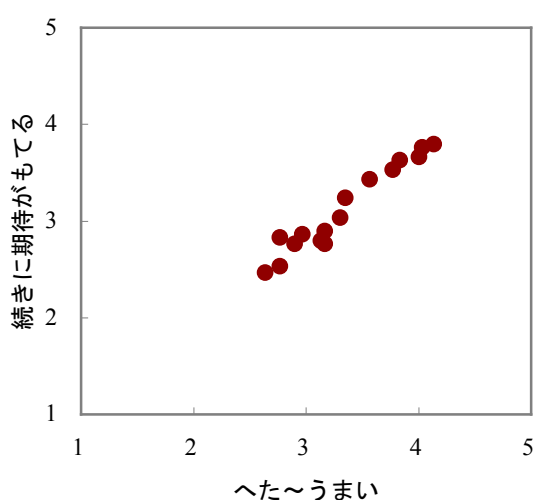


図5 回答者群2による「番組の続きに期待がもてるか」と「うまいかへたか」の平均評価の関係

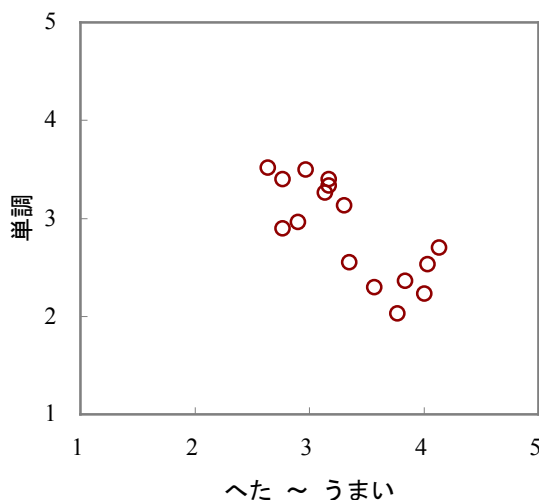


図6 回答者群2による「単調か」と「うまいかへたか」の平均評価

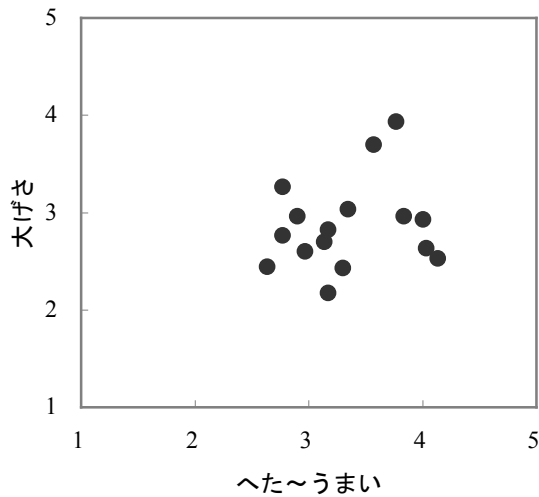


図7 回答者群2による「大げさか」と「うまいかへたか」の平均評価

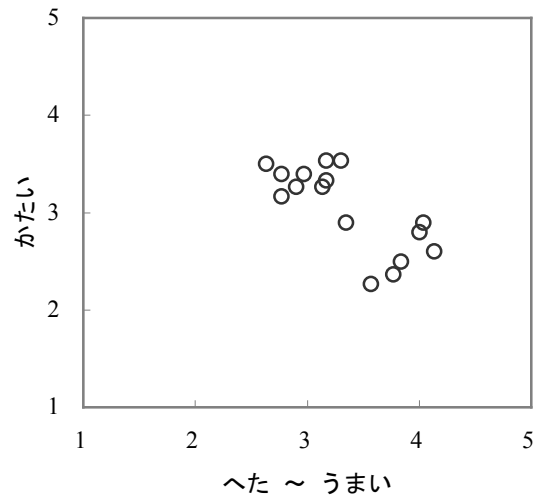


図8 回答者群2による「かたいか」と「うまいかへたか」の平均評価



図9 回答者群2の回答の因子分析結果 (バリマックス回転後のプロット)

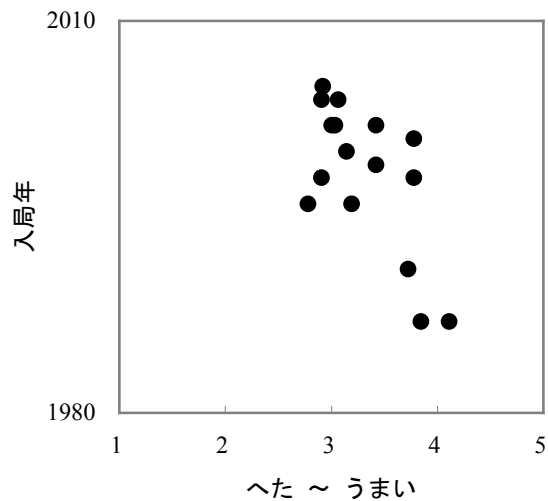


図10 話者の入局年と「うまいかへたか」の平均判断

4.6 ナレーションのうまさとはどういうことか

回答者群1の回答から「うまい」という評価は「プロだ」「好き」の評価と互いに高い相関関係があることがわかった。また 回答者群2の回答からは、「うまい」と「続きに期待がもてる」の評価は互いに高い相関関係があり、同時にそれらは「単調」「かたい」の評価と高い逆相関関係があることがわかった。先に因子分析結果について述べた解釈と総合すると、常識的な解釈を結果的に確認することになるが、ナレーションのうまさとは

「内容を表現豊かに描写し、その結果として続きを期待させる技量」であり、そのような技量を持つのが真のプロと思われており、そのように表現されたナレーションは好きだということと解釈できる。

そして、ベテランとして長く活躍するアナウンサーはどうやらそうした技量を身につけているが、5年程度の経験ではなかなか難しいようである。図10は各音声のうまいへの評価（全63名の平均）と、話者のアナウンサーとしてのNHK入局年（NHKのウェブサイト www.nhk.or.jp/a-room/ の情報）の関係をプロットしたものである。わずか16名の検討にすぎないが、アナウンサー歴20年程度以上のベテランはいずれもうまいという評価が高く、5年程度の話者は評価は高くない。10年前後の経歴の話者では個人差が大きい。このことも考えてみれば当然の結果と言えようが、実証的に一応示されたことになる。

5 うまさの評価と音声的特徴の関係

次に各音声の音声的特徴とナレーションとしてのうまさの関連を検討する。話者がすべて異なること、ピアノ音等がかぶっていることから、声の音色の検討は困難なので行わず、F0と持続時間・ポーズの検討にとどめる。さらに、持続時間については文およびポーズでは含まれた区間を当面对象としており、分節音レベルの検討はまだ行っていない。分析はPraat上で行ったが、F0については自己相関法によって抽出された値を、狭帯域スペクトログラム、場合によっては原波形を参照しながら確認し、必要に応じて修正を行った。

なお、検討対象となる資料数が多くないため、「うまさ」と音響的特徴の対応についてはグラフの視察によって行うにとどめた。したがって、ここで報告する検討内容は多分に印象的なものであり、結果も暫定的なものである。

5.1 F0の特徴

5.1.1 F0曲線概形

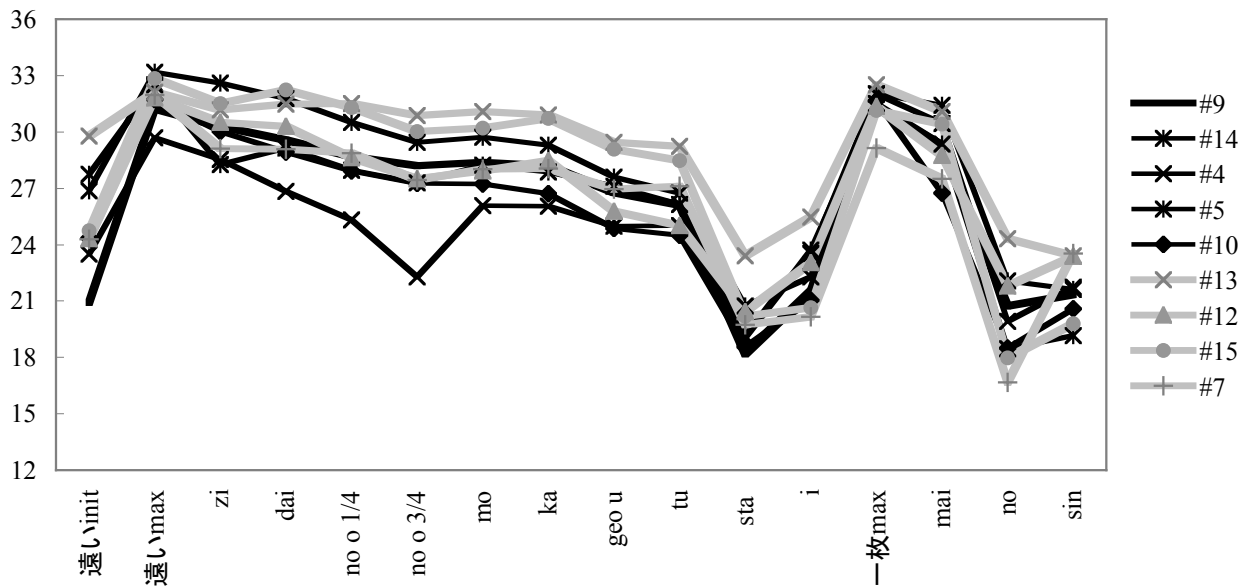
F0曲線そのものについては付図を参照。評価の高いものから順に並べてある。

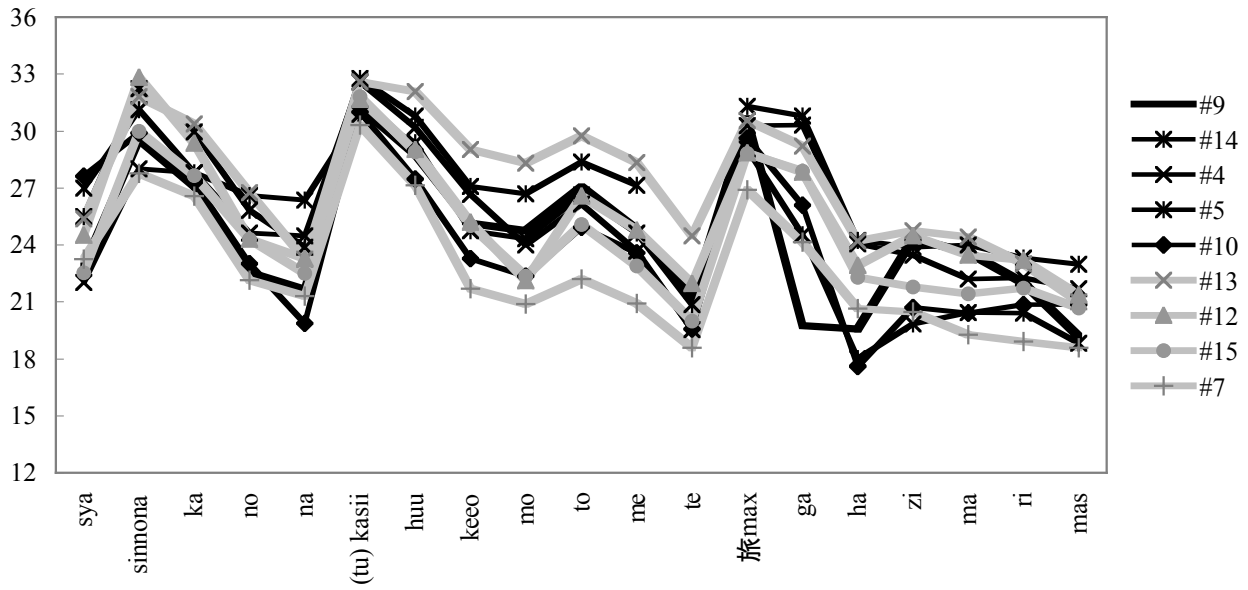
次に4.1節及び図3で定義した「高評価音声」（平均評価3.5以上）を黒で、「低評価音声」（平均評価3.0以下）を灰色で示す。このF0概形は母音区間の中央部の値（図でzi, dai, moのように表示した箇所、no o については母音区間の1/4と3/4の地点の値）または

語内の最大値・最小値（遠いmin, 旅maxと表示した箇所）を結んだものである。高さの単位は50Hzをベースとする半音値(st)である。

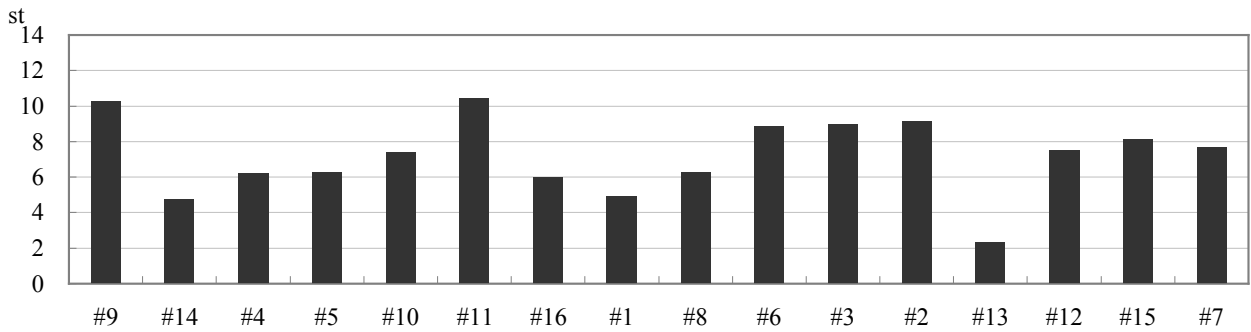
ここから、高評価音声と低評価音声の違いとして、いくつかの特定の箇所でのF0変化の大きさ、および全体的な特徴を候補にあげることができそうである。以下ではそれを個別に検討する。

測定した各音響値を、「うまい」の平均評価の高い順に並べて示す。「高評価音声」（平均評価3.5以上）は左5つ、すなわち#9, 14, 4, 5, 10, そして「低評価音声」（平均評価3.0以下）は右4つ、つまり#13, 12, 15, 7である。

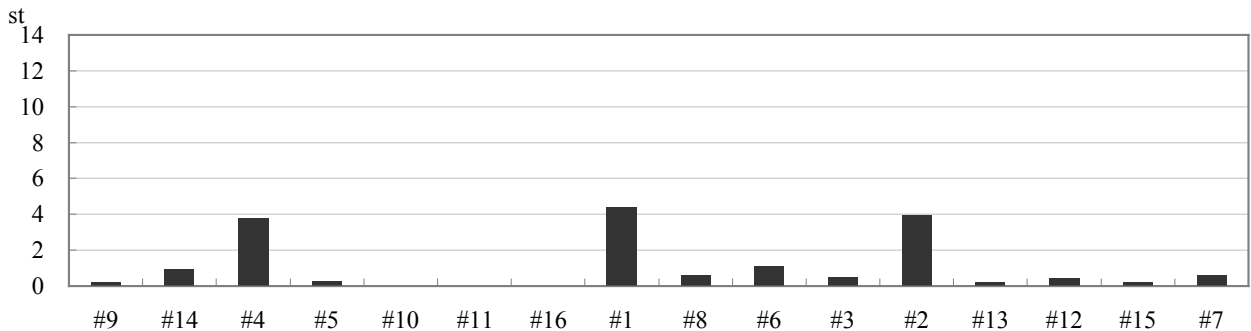




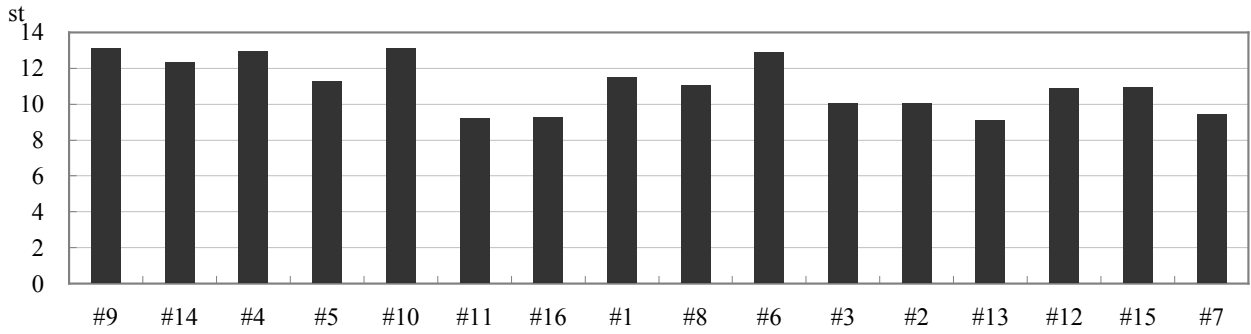
5.1.2 「遠い」における冒頭から最大値までの変化量（単位st，以下同様）



5.1.3 「おもかげ」におけるoから[m]oまでの変化量

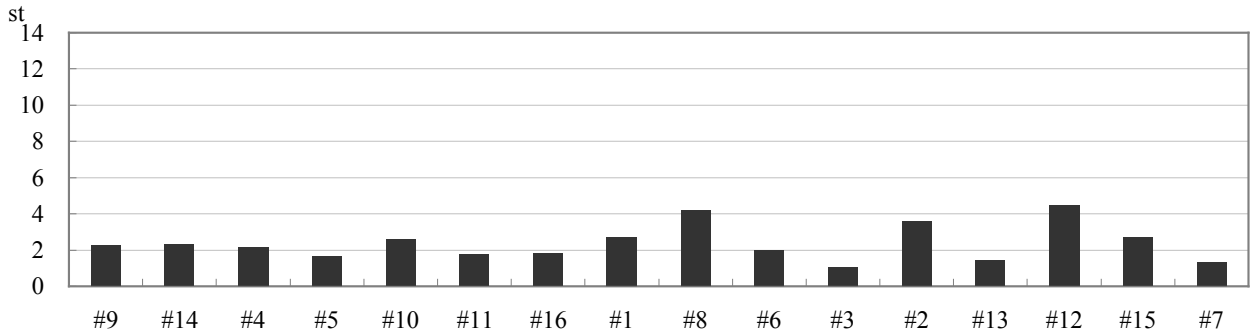


5.1.4 「(写し) た一枚の」におけるtaから最大値までの変化量



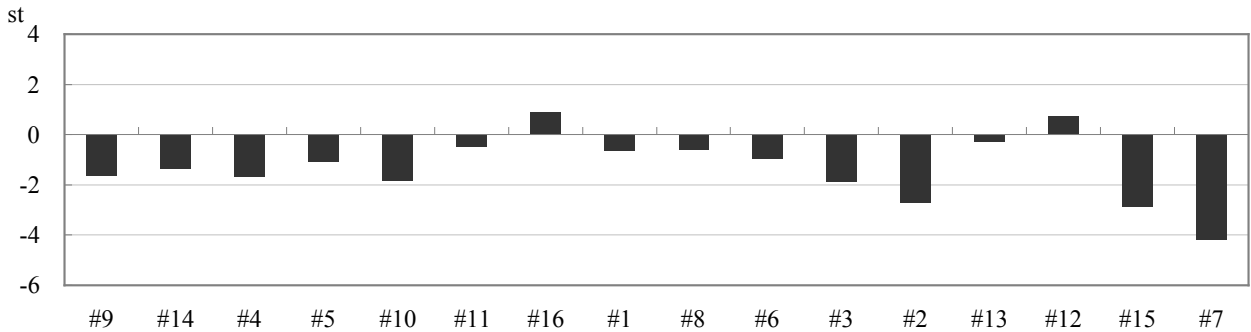
この値が大きいものは高評価音声の傾向があるようだ。

5.1.5 1文目最後の「の写真」における[n]oから[s]iまでの変化量



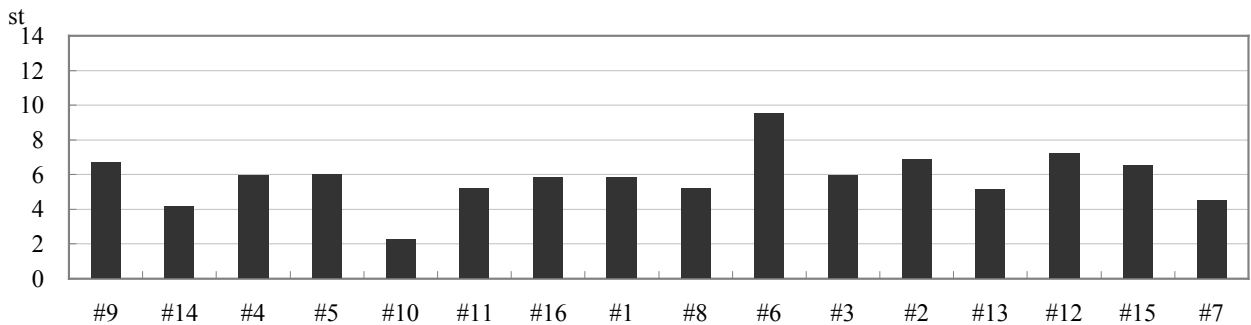
高評価音声にはこの値が大きいものはない。

5.1.6 1文め冒頭の最大値から2文め冒頭の最大値への変化量



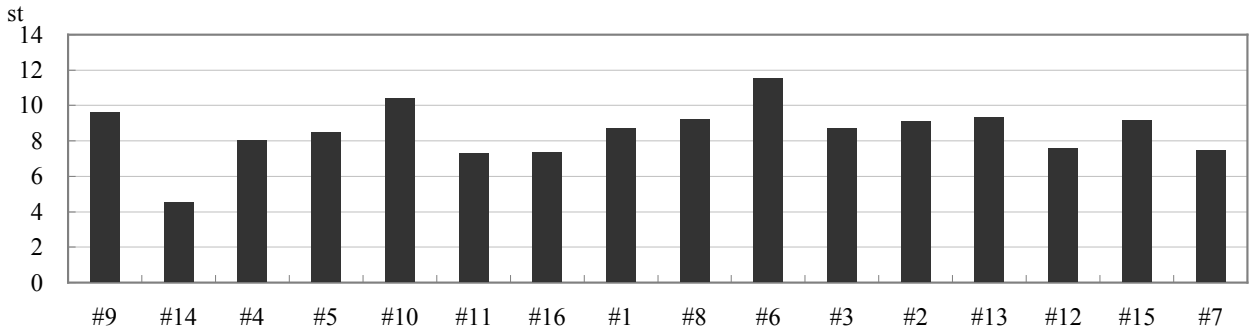
高評価音声はこの値が-1~-2st程度の負の値である。つまり2文間で1-2st下降している。

5.1.7 2文目冒頭の「写真の」における[sy]aから[s]iまでの変化量

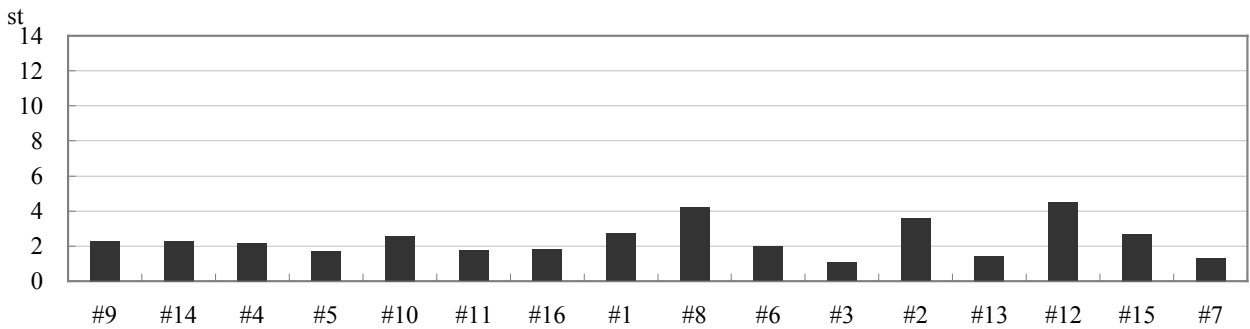


高評価音声にはこの値があまり大きいものはないようだ。

5.1.8 「なつかしい」における[n]aから[k]aまでの変化量

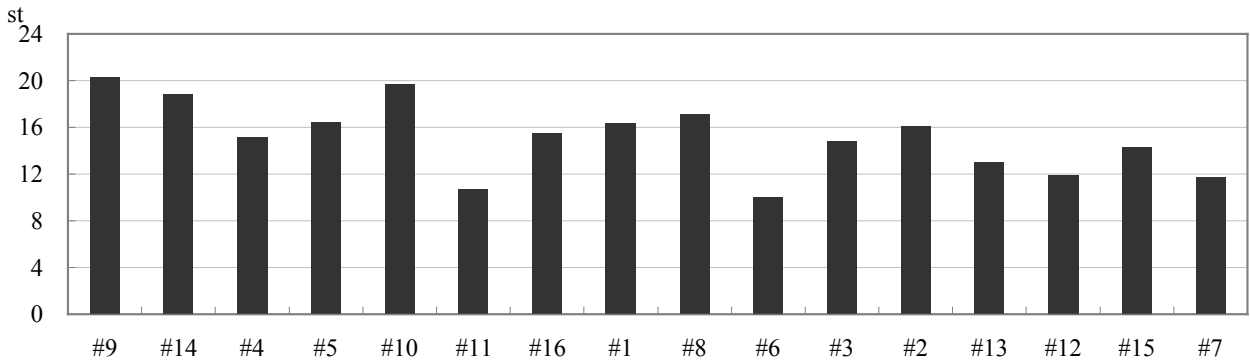


5.1.9 「求めて」における[m]oから[t]oまでの変化量



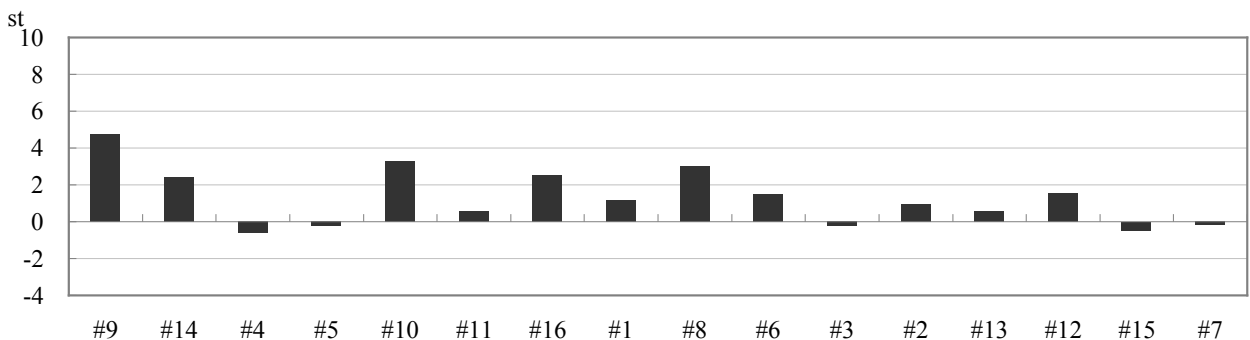
高評価音声にはこの値が大きいものはない。

5.1.10 「旅が」におけるtaから最大値への上昇と、そこから次の「始まります」の[h]aへの下降の変化量合計



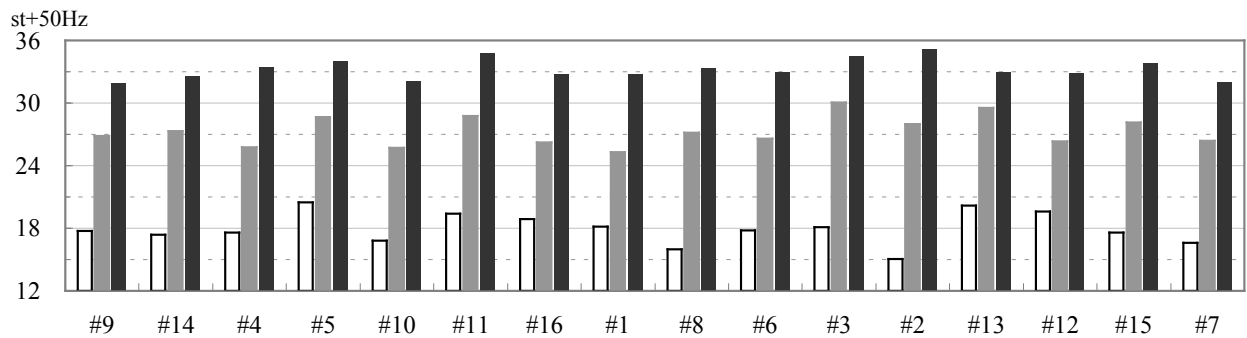
この値が大きいものは高評価音声の傾向があるようだ。

5.1.11 「始まります」における[h]aからmar imaの最大値までの変化量



低評価音声はこの値が小さい。逆に、もっとも高評価音声である#9はこの値が約5stと特に大きめである。

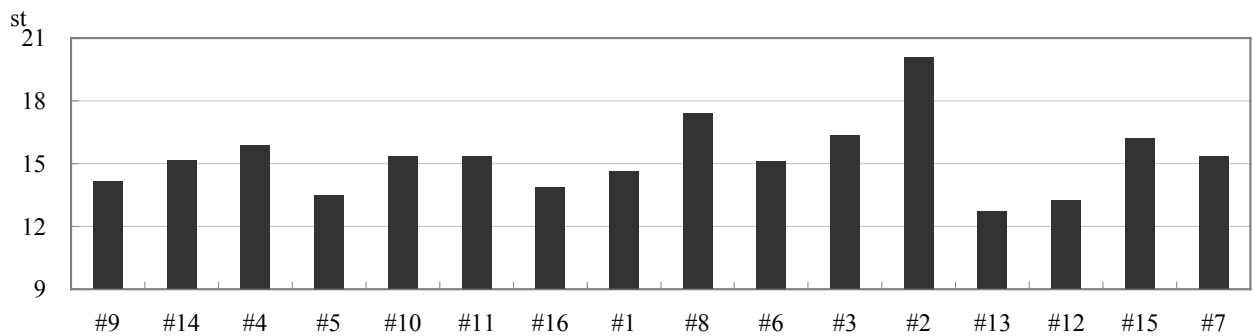
5.1.12 全体の最小値, メディアン, 最大値



36st=400Hz, 30st=283Hz, 24st=200Hz, 18st=141Hz, 12st=100Hz

メディアンがあまり大きい（高い）音声には高評価音声はないようだ。

5.1.13 全体の最大値と最小値の差（レンジ）

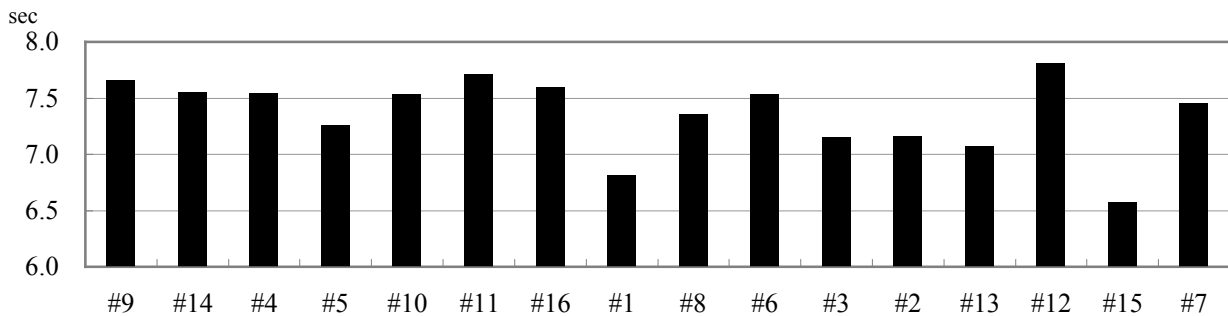


全体のレンジが大きい音声には高評価音声はないようだ。

5.2 持続時間・ポーズ

ここでも各音響値は「うまい」の平均評価の高い順に並べて示す。

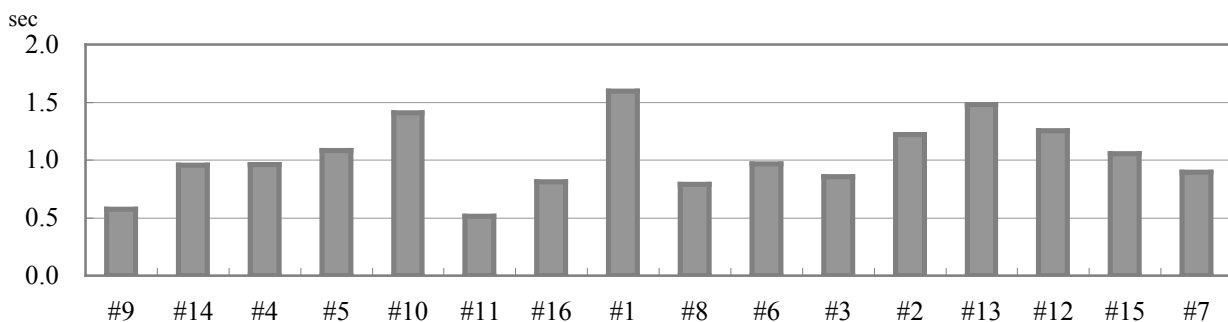
5.2.1 実音声区間長合計



実音声区間が短めのものが高評価音声ではない。

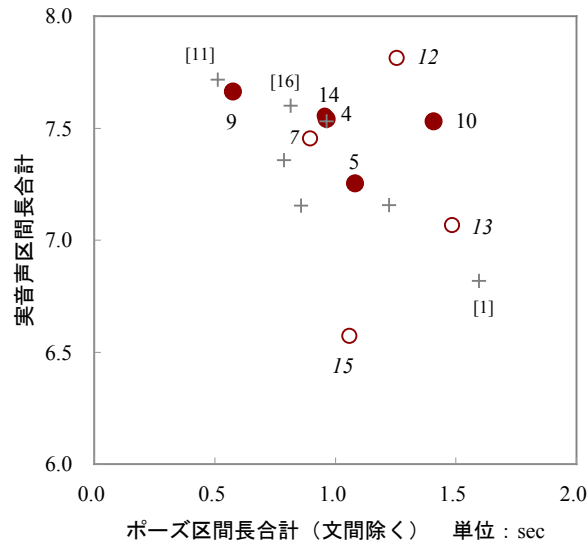
5.2.2 ポーズ区間長合計（文間のものは除く）

文間ポーズは番組作成時に映像と合わせるためなどの都合で操作されている可能性もあるので別に扱った。

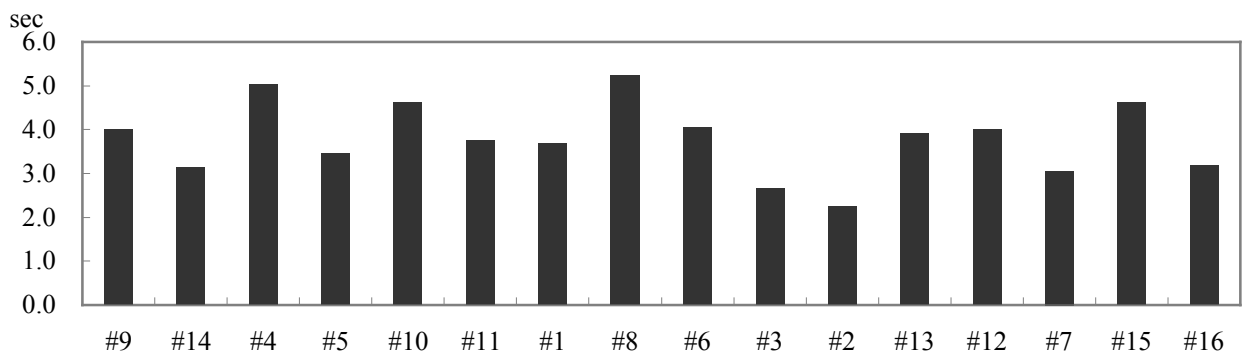


文内ポーズが長めのものが高評価音声ではない。

実音声区間も文内ポーズも「うまい」評価と一定の関係がありそうである。両者をプロットしたものが下図である。図中、●が高評価音声、○が低評価音声である。例外はあるが、実音声の発話速度がゆっくりめで、ポーズが短めのものに高評価音声が多い。



5.2.3 文間ポーズ



特段の傾向は見あたらないようである。

5.4 うまいナレーションにはどのような特徴があるか

うまいという評価に関係ありそうな特徴をまとめると以下のようなようになる（上記の検討順と異なる）。しかし、いずれも傾向にとどまるものであり、単独で決め手となりそうなものはない。当然、こうした要素が複合して決まるものと思われる。

5.4.1 持続時間

実音声の発話速度がゆっくりめで、文内ポーズが短めのものに高評価音声が多い。表現効果を目指して文内ポーズを置くことにはうまく感じるかどうかという点では効果は薄いと言うことか。文間ポーズの量はうまいかどうかとは関係がないようであった。

5.4.2 F0の全体的特徴

- ・メディアンがあまり大きい音声（相対的に高い声）には高評価音声はないようだ。つまり、高評価音声では平均的に高い声でない方がよいように思われる。
- ・全体のF0レンジが大きい音声には高評価音声はないようだ。つまり、高評価音声ではあまりにも高低差をつけすぎない方がよいように思われる。

5.4.3 F0の個々の文節（アクセント単位）の特徴

- ・「（写し）た一枚の」でtaから最大値までの変化量が大きいものは高評価音声の傾向があるようだ。つまり、高評価音声では「一枚」冒頭のF0上昇が際だつように発音されているように思われる。
- ・1文目最後の「の写真」で[n]oから[s]iまでの変化量が大きいものは高評価音声にはない。つまり高評価音声ではこの「写真」冒頭のF0上昇が抑えられているように思われる。
- ・1文め冒頭の最大値から2文め冒頭の最大値への変化量について、高評価音声はこの値が-1~-2st程度の負の値である。つまり、高評価音声では2文目冒頭は1文目より1-2st低いように思われる。
- ・2文目冒頭の「写真の」で[sy]aから[s]iまでの変化量があまり大きいものは高評価音声にはないようだ。つまり、高評価音声ではこの「写真」冒頭のF0上昇をあまり際立たせるとよくないように思われる。その結果、前項のように2文目冒頭は1文目より1-2st低いことになるのだろう。

- ・「求めて」で[m]oから[t]oまでの変化量が大きいものは高評価音声にはない。つまり、高評価音声では「求めて」冒頭のF0上昇を際立たせるとよくないように思われる。
- ・「旅が」でtaから最大値まで上昇し、その次の「始まります」の[h]aへと下降する合計変化量が大きいものは高評価音声の傾向があるようだ。つまり、高評価音声では「旅が」冒頭のF0上昇を際立たせるとよいように思われる。
- ・「始まります」で[h]aからmarimaの最大値までの変化量について、低評価音声はこの値が小さい。逆に、もっとも高評価音声である#9は「始まります」冒頭のF0上昇が約5stと特に大きめである。

結局、個々の文節（アクセント単位）のF0の際だちのさせかたとして、以下のようなものが高評価音声の特徴と言えそうである。ここでは f で各文節冒頭のF0上昇の際だちを、 p でF0上昇の抑えを示す。 x は際だち、あるいは抑えをしないことの意味である。

遠い時代の面影を写 f した f 一枚の p 写真。

写真の中の懐かしい風景を x^f 求めて f 旅が x^p 始まります。

通常の間イントネーション規則から考えて例外となるのは最後の「始まります」である。通常はここは意味的被限定箇所であり、文節冒頭のF0上昇は抑える。しかし、特にもっとも高評価音声である#9はここをあえて抑えていない。そのことが、この続きへの期待感を生み出しているのであろうか。これは、通常の間イントネーション規則から逸脱することが特別の表現効果をもたらすという例になろう。

他の点は通常の間イントネーション規則と矛盾するものではない。ただ、1文目の「一枚の」を強調ぎみに発音させ、後続する「写真」を同時に抑えることで「一枚の写真」全体にフォーカスを置く発音がよいということであろう。ただ、それはプロであれば当然考えることと思われる。実際、低評価音声でも9-11st程度は昇させている。しかし高評価音声では11st以上ある。つまり際立たせ方が相当大きい方がよいということであろう。これは、通常の間イントネーション規則を守るだけでなく、表現内容の要求に合わせて文節冒頭の上昇量を調節することが「うまい」ナレーションには求められることを意味する。

フォーカスをきちんと実現させるべきなのは2文目の「旅が始まります」も同様だが、やはりそれはプロであれば当然するであろう。したがって、ここでもその際立たせ方が相当大きい方がよいということであろう。事実、低評価音声でも12st程度は変化させてい

る。しかし高評価音声では16-20st程度ある。また、先述のようにここでは「始まります」は通常とは異なり、抑えない方がよいようである。

「求めて」は際だたせるとよくないという結果になった。フォーカスがあるべき箇所ではないのでこれは不思議ではないが、ここで表現効果を高めようとするためか、つい際だたせてしまうことがあるのだろう。ここでの規則逸脱は表現効果向上には役立たないようである。

また、2文目を1文目よりほんの少し低く始めることもうまさ評価と関係がありそうだ。2文目冒頭の「写真」は1文目の「写真」を受けた旧情報であり、際だたせると不自然なためだろう。

6 まとめ

本稿の前半では、ナレーションのうまさとはどういうことかについて評価実験の結果を検討した。その結果、それは「内容を表現豊かに描写し、その結果として続きを期待させる技量」であり、そのような技量を持つのが真のプロと思われており、そのように表現されたナレーションは好きだということになるだろうかと思われた。そうした技量はベテランとして長く活躍するアナウンサーは身につけているようだが、5年程度の経験ではなかなか難しいようである。以上は常識的な理解を超えるものではないが、それが実証的に一応示されたことになる。

本稿の後半ではうまい・へたの評価と音声的特徴の関係を試行的に検討した。細かい点は5節で述べたとおりだが、重要な点として

- ・実音声の発話速度がゆっくりめで、文内ポーズが短めのものに高評価音声が多いという傾向があった。
- ・通常の文イントネーション規則を守った上で、フォーカスのある文節の際だちを相当大きくすることが高評価と関連しているようであった。
- ・最後の「始まります」において通常のイントネーション規則から逸脱してあえて少し際だたせることで、その後への期待感というような特別の表現効果を生み出しているかと思われる例があった。
- ・結局、ゆっくりめに、ポーズは少なめにした上で、個々の文節のアクセント実現度を文の意味内容と表現内容にあわせて適度に調節することが、ナレーションのうまい・へたの評価に大きく関わっているように思える。

付表 自由記述結果

#9 || うますぎ だまされそう 悪女風| いかにもナレーションといった印象| ゆっくり冷静おちつきのある人。包容力ありそう。「お母さん」のような。| 教科書通りの話し方| 声の通り方(質)がプロみたい 安心して聞いていられる| やさしい, 語りかける感じ, 笑顔で呼んでそう| アナウンサーっぽい| プロっぽい| 聞きやすい声, トーン| 落ち着いて聞こえる| | 朗読調な感じがする| 「始まります」で上がった 統語が×?| 後ろの文の休みの後のつながりが良い| | | | | うるさい耳につくトーンおさえろ| 「しゃしんの」....? ん+の| 優しそう| 安心できる感じ| | やさしい。“はじまる”きょうちょうしすぎ?| | 旅が始まりますがなんか棒読み| | | 声がいい 語尾まで意識が行き届いているような気がする| 間が長い| 大女優?| | あったかい

#14 || 優等生っぽい| | 前の人(13)に比べて落ち着いている。けど抑揚が少なめと感じた。| 「旅が」が強調されている| 力強い印象| アクセントが強い| | | | 低めで落ち着いて聞こえる| すっきりしていて良い| アナウンサー 落ちついていていい| 最後走る| | | | | | よいのでは| | 上手| | | | 「じ」「ち」「しゃ」などが仲間由紀恵さんに似ている| | | | 声がいい 落ちつく| | 息継ぎが少ない| | ふつう

#4 || ナーツカシイ こびが見える| | 「なつかしい」が耳に残った| 心がこもっている(「なつかしい」あたり)| 「なつかしい」に力が入りすぎ| やさしい 間のとり方がうまい| アナウンサーっぽい| ポーズの取り方が丁度良く感じる| 「写真の中の懐かしい」がすごく強調している気がした| 声が高い| 「中の懐かしい」に余分なイントネーション(?!)のようなものを感じる| 感情が入っていて自然でいい| ぶつ切れ感| 息もれ(まさつ)が気になる| | | | | さわやか| | 上手くしゃべろうとがんばってるかんじ| | | 強調してる所がうまい| | 写真の中の懐かしい風景を求めるかんじが伝わってくる| | | | | 感情がこもってて好き| いい! 懐かしいのところのアクセント| 気持入りすぎ?

#5 || 地方局アナか| | やわらかい声質のイメージ。特にひかかる箇所なく聞ける。| 抑揚がしっかりしている| | やわらかい, 落ちついた感じ| アナウンサーっぽい| 声の高さが優しくて心地良う感じる| | 声が高い| | 落ち着いた感じがする| 後半走る| 声色の変化が大きい| | くらい| | | (暗) 語尾~| トーンが低い| 上手| 少しはやい| | たんちょう| | 旅が始まりますが好き| | | NHKなどのアナウンサーに似てる| NHKのアナウンサーみたい| | すっきり

#10 || 空気多い 「し」とか| | このアナウンサーの方, よく見るので結構個人的に好きです。
まじめなイメージ。頼れそう| やさしさ。こころが籠もっている。余韻がよい。ノスタルジック|
やさしいイメージ| 単調| 落ちついた声音はわりと好きです| | | 落ち着いて聞こえる| | 無声
化がきれいに聞こえる| 最後走る| 鼻にかかった声| | そんな嬉しそうに言わなくても| | | ハ
キハキしゃべってききにくい よくようが…| 「おもかげを」…?| 声がちょっとかすれてい
る| | | なんか… さらさらしてる(?)| 「写真」が関西のイントネーションのよう| | | | |
声がさらさらしてる| | 声あんまり好きじゃない

#11 || 感情入れすぎ ナレーションにそんなんイランねん| 声色が明るい| 明るく透き通った
声。ちょっと声質が高め。| 「写真の中の」のイントネーションが独特| | 明るい わくわくす
る| | | ナレーションが際だちすぎて音楽と合わない| 声が高め| ふくらむ感じがいや| 上手だ
けど(感情が入っていていい) アナウンサーではない| プロミネンス無理矢理な感じ| 前半感
情を入れすぎ| | | | | とおー(上線+→) おもかげ(早口) なつかしいふうけい(上線
+→) 発音一定すぎ| 「しゃしんのなかの」…? ん+の+な| うきうきしている| | | あか
るすぎ わらってるかんじ| メリハリがない| アクセントが気持ち悪い| | | ねちっこい| 2番と
似てしゃべり方がしつこい| 温かみがある| | 声のトーン好き

#16 || のぼしすぎ 押しつけがましい| | ゆっくり, おちついた感もあり。語尾のイントネー
ションが上げめ, 早口めだった| 抑揚がしっかりしている| | 語りかける感じ やわらかい| |
おおらかな感じ| 気持ちが入ったナレーション| 落ち着いたしゃべり方| 普通| すごくいい
ゆっくりでききやすい| 「風景」の母音| | | | | | | 上手| 声太い| | やわらかい| 「。」
や「,」のところでイントネーションが下がってないのが気に入らない| | | | | | 慣れている|
強弱がない 全部一定に聞こえる| もそもそ

#1 || あいそない| | ちゃきちゃきしてる人| 抑揚はしっかりしているが声はイマイチ| あまり気
持ちがこもってない| 語尾が強い| 声あまりとおっていない?| 他のしゃべり方に比べて淡々
としている気がする| 区切り方が気になる| 落ち着いたしゃべり方| 「時代の」「中の」の
「の」で区切りすぎ 聞いて気になる| 何となくぎこちない 「~の」が変| 単語から助詞への
移行が甘い| 最初はもっとゆっくり言って欲しい 後半はOK| | | | 声がこもってる, ききとり
にくい| ぶつ切れ| | 上手| 少しはやい| | 「が」がはなにかかっている| | はやい 切ってい
る| | | 少々語気が荒くて好きじゃない| | 「旅が」←すごく強調されている| | 世界の車窓み
たい

#8 || 「始まります」が明るい 次の展開に期待が持てる | 「始まります」が始まりを予期させる | 最初は若くておとなしくてかわいい人のイメージ 後半のイントネーションから元気さも感じられる | 個性が強い (「求めて始まります」のあたり) | 声の通り方 (質) がプロみたい | 軽い, 前向き, 間がうまい, 何かが始まりそう | 最後だけ若干可愛い子ぶった喋り方が少し気になりました | 「求めて」の話し方がたどたどしい | 「懐かしい」以降もう少し落ち着いた感じが好ましい | 声は高いがピッチ動きlivelyで好印象 | 「始まります」が元気すぎる | 何となく元気な感じがする (cheerful) | 後半ナレーションぼくない 語りの 俳優? | 「旅が始まります」が他の人と違って軽快 | | | | イイ 40代50代の人ぽい いや30代後半 | 滑舌良い | 文と文の間が長い | 少しはやい | | あかるい 一歩まちがえると子供っぽい | 「求めて」の「て」が長い。 「始まります」も軽すぎ | 旅が始まりますが好き | | | 「ます」が嫌 | | タレント? | | 前半すき 後半きらい

#6 || 低い 落ち着く声だけどねむい | | 落ち着いた人 聞いているガワも落ち着いてゆっくりできそう | 心がこもっていない。サラっと言ってるだけのよう。 | ちょっと暗い感じがする 旅やのに | 落ちついた感じ。番組の終わりの方が適している? | 落ちついた声音はわりと好きです | 全体的に重い気がする | | 低めで落ち着いた印象 | 落ち着いている | ききやすい | 母音への移行甘い 最後走る 平板 | | | | | 息つぎすくなっ | とおい, しゃしんの 言いにくそう | しゃべり方遅い | | | | 「懐かしい風景を求めてのイントネーションがじっくりくる | ちょっと暗いような気がする | | | | ニュースのアナウンサーに似てる | 淡々としている | 嫌い! 暗い |

#3 || ガサガサ, 空気多い | | 最後が' 上がっているので盛り上げたそう | 「始まります」の言い方が本当に始まりそうなきにさせる。心がこもっている。 | | はきはき | 本業は女優か何かされてるかたが読まされてる感じ | サ行の音が耳に残る | もう少し落ち着いたトーンが個人的には好ましい | 声が高い | 普通 | 少しおおげさ「遠い」の所 | 最後走る 最初大げさ | 「遠い」が耳ざわり 強調しすぎ | | | | わくわくが伝わってくる | ら行きになる | | 息吐きすぎている | | | | 「風景を求めて」が直線的 | | | | | 女優さんみたい | | どうぶつのやつみたい

#2 || 明瞭だがちょいロボ | | 若い人 しっかりしてる人 A型? | 「ん」が浅い | 抑揚が好き 旅に出たくなる | 早口 明るい | | 声が高すぎる感じがする | 一度目の「写真」の声の消え入り方が気になる | 声が高い ←この人は特に高かった? | 声が高い もう少し低い方が | 何となく声が高すぎて聞きづらい気がする | 「の→おもかげ→を」移行が甘い | | | | | 最後があがり調子のばし気味 | | 幼いかんじがする | | | 「さ行」がぬけてる | | はやい | | | やわらかい | 甘ったるいしゃべり方だった | テンポ感が良い | | ドキュメンタリーぽい

#13 || テープの車内案内のよう | ちょっとなまってる!?! 他の人に比べてはやい。「始まります」がはやい。せっかちな人か | 抑揚があまりない 単調 | 少しぎこちない 「懐かしい風景」のイントネーションが嫌い | 軽やか さわやか | 「懐かしい」の発音が少し気になりました | 特徴的な話し方だと思う | 平坦に聞こえた | 声が高い | 声が高い気がする | 何となく 読むペースが変 | 速い 「懐かしい風景」のイントネーション | | | | | はきはき ちょっとぺらぺらつてなることがある (中のなつかしい) | | 急いでいる | 棒よみ | | アナウンスっぽい | 「懐かしい風景」が外国人の日本語みたい | 懐かしい風景が気持ち悪い (上線) | | | | 他と比べてはやい | 清楚 | なまりがある 嫌いではない | イントネーションいや

#12 || カタブツっぽい 発音正確にしようとする 古いかんじ | | 「懐かしい」の前の間がなかったのが違和感 | 年がたってそうな声・しゃべり方 | あまり声がとおっていない | やわらかなまり? | アナウンサーではない気がします | 少し堅い感じがする | 上手い | 落ち着いたしゃべり方 | | まじめなかんじ かなり注意を払いながら読む感がある | 「風景」のモーラリズム&母音 | | | なつかしいの「い」の下がり方がびみょう | | | もうちょいよくようつけれそう | 「しゃしんのなかの」...? ん+の | やる気なさそう | | | ただゆってるかんじ | ...景を... ここががつながって「ふうけを…」に聞こえる | 棒読み | | | 棒読みに近い | 無愛想 | リズムがない | もそもそする

#15 || みんなより早口 | 素人っぽい印象 | わざとゆっくりor早口ではないので自然なスピード。ナレーションとしてははやいかも。 | 早口すぎる | 特に後半がなめらかじゃない | 速さが変わる前向き | 読むテンポが他の人たちと少し違った気がします | 口の中にもっているような感じを受ける | はやすぎ 内容や音楽と全然イメージが違う | テンポがはやめで他のナレーションと比べるとせわしく聞こえる | 他とは違う番組かと思わせる やや速いからか | 写真の中の～が特に機械的 | 全体に走りすぎ | | | | | よいのは | 「時代の面影の」抑揚? | 鼻声?? | はやい | | はやい | 後半急ぎすぎ | 早口だと思う 特に後半 | | はきはきしてる | | | 早口 アナウンサー? | 落ち着きがない プロではない | 滑舌

#7 || しゃしん: 高低多すぎ | 声色が暗い | 「写真の中の…」声質がこもってるような。鼻声?! | 俳優っぽい気がする。 | | 慣れてない感じ | 「遠い」と聞こえた | 出だしの「遠い」が聞き取りにくい | 「遠い時代」の言い方が何となく気になる | 低めで落ち着いた印象 | 鼻濁音好きじゃない 気になる | 感情は入っているけれどアナウンサーではない | リズム感悪い 後半の山が低い | 「遠い」と引っぱったのが気になる | | | | | 「はじまります」たのしそう | | 最初の方急いで | | | よくありそう | 風景の「ふ」をFっぽく行っているのはあまり... | 風景の「フ」が気になる | | | | | 「な行」つまる | | おそい